

# 日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2023年6月22日 木曜日

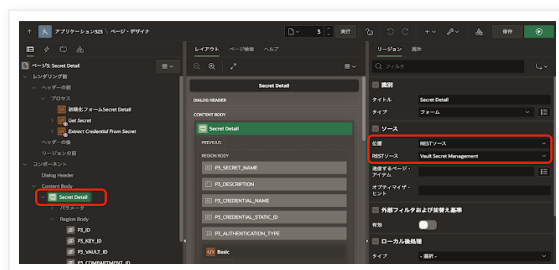
## OCIのシークレットを操作するアプリケーションを作成する(3) - その他

OCIのシークレットを操作するRESTデータ・ソースを作成し、それを使ったAPEXアプリケーションを作成しました。

RESTデータ・ソースを使用するにあたり、いくつか考慮する点を記述します。

### フォームの初期化と行のフェッチ

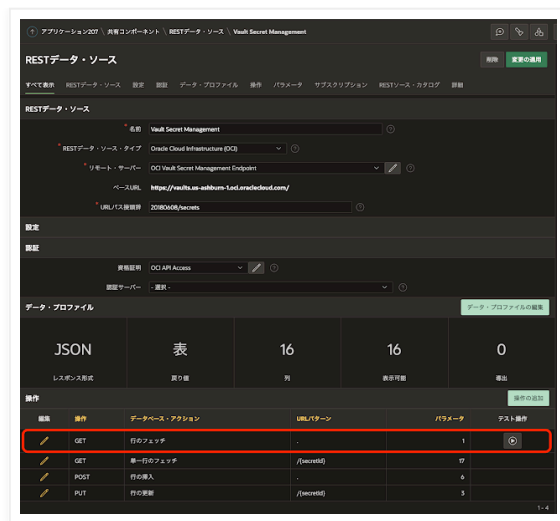
以下のようにフォーム・リージョンのソースとしてRESTデータ・ソースが設定されている場合、フォームの初期化プロセス（プロセス・タイプがフォーム - 初期化）は、データベース・アクションが行のフェッチである操作を呼び出します。



今回作成したアプリケーションでは、フォームの初期化は初期化フォームSecret Detailによって実施されます。



呼び出されるREST APIは、データベース・アクションが行のフェッチである操作です。



OCI Vault Secret Management APIでは、これはListSecretsの呼び出しになります。つまり、指定したコンパートメントに保存されているすべてのシークレットを受け取り、APEX側でその中から特定のシークレットを取り出します。

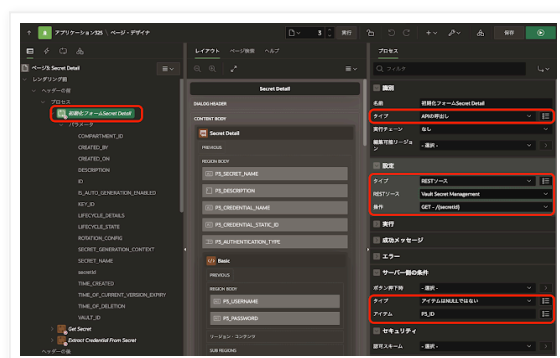
OCIのシークレットであればそれほど大量にデータがあるとは思えませんが、フォームを開くたびにデータを全件取得することは、パフォーマンスに悪い影響を与える可能性があります。

APEXの開発者によると、データの一覧を取得するREST APIと、その中の特定の1行を取得するREST APIでは、必ずしも同じデータ項目を返すわけではないことから、レポートと同じAPIを呼び出してフォームを初期化している、とのことでした。

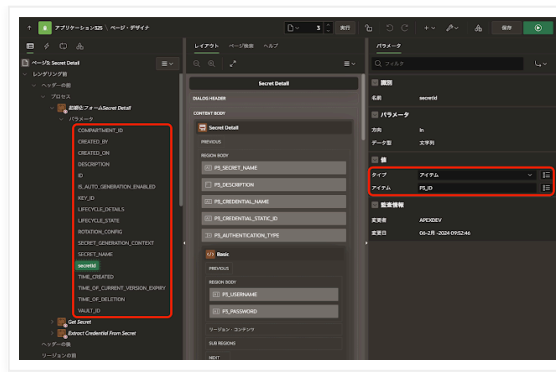
今回使用しているAPIのListSecrets（レスポンスはSecretSummary）とGetSecret（レスポンスはSecret）のように、SecretSummaryの属性がすべてSecretに含まれている場合は、フォーム・リジョンのRESTデータ・ソースの行のフェッチを、特定の行だけを取得するAPI呼び出し（今回の例ではGetSecret）に変更することができます。

プロセス初期化フォームSecret DetailのタイプをAPI呼び出しに変更し、設定のタイプとしてRESTソース、RESTソースとしてVault Secret Management、操作にGET - /{secretId}を指定します。

サーバー側の条件のタイプとしてアイテムはNULLではないを選択し、アイテムにP3\_IDを指定します。



すべてのパラメータの値として、適切なページ・アイテムを指定します。



フォームを開く際にP3\_COMPARTMENT\_IDに値を渡していましたが、上記の対応を行ったあとはシークレットIDだけでコンテンツを取得するため、不要になります。



以上で対応は完了です。

## RESTソース・カタログの活用

RESTソース・カタログを作成すると、作成したRESTデータ・ソースを保存することができます。RESTソース・カタログに保存されたRESTデータ・ソースの定義を元に、新たにRESTデータ・ソースを作成したり、既存のRESTデータ・ソースの定義を更新することができます。

ワークスペース・ユーティリティのRESTソース・カタログを開きます。



RESTソース・カタログの作成には、**カタログ・グループ**が必要です。最初にカタログ・グループを作成します。

グループの作成をクリックします。



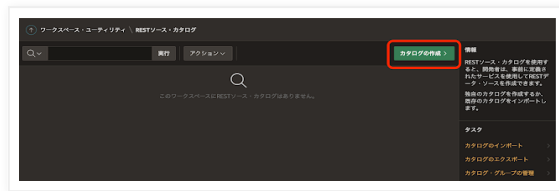
名前はOCI REST APIとします。説明は<https://docs.oracle.com/en-us/iaas/api/>とします。

作成をクリックします。



カタログ・グループを作成したので、RESTソース・カタログを作成します。

カタログの作成をクリックします。



グループには、先ほど作成したOCI REST APIを選択します。名前はVault Servicesとします。

内部名は組織内で一意となる名称にします。

説明を記述して、作成をクリックします。



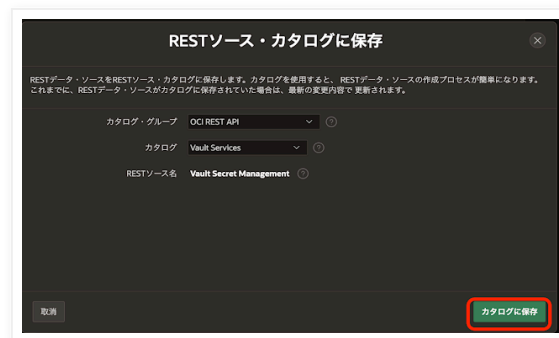
RESTソース・カタログが作成されます。



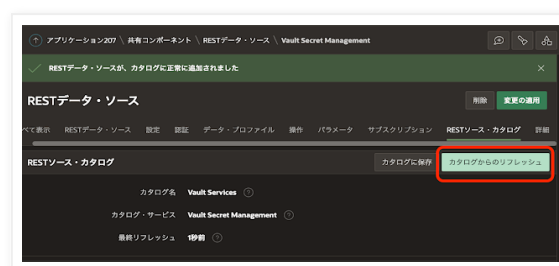
RESTソース・カタログが作成されていると、RESTデータ・ソースのRESTソース・カタログのセクションより、**カタログに保存**することができます。



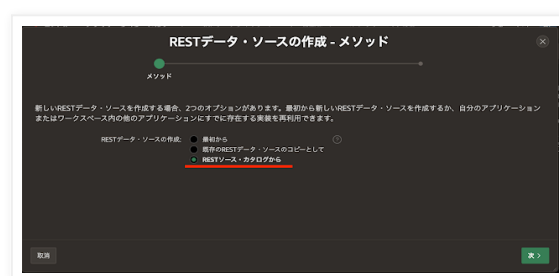
**カタログ・グループ**および**カタログ**を選択し、RESTデータ・ソースを**カタログに保存**します。



RESTデータ・ソースがカタログに保存されると、逆に、**カタログからリフレッシュ**できるようになります。



RESTデータ・ソースの新規作成時に、**RESTソース・カタログ**から作成することもできるようになります。



RESTソース・カタログとして、**エクスポート**や**インポート**も可能です。



RESTデータ・カタログを活用することにより、一度作成したRESTデータ・ソースを再利用できます。

今回の記事は以上です。

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 16:04

共有

◀

ホーム

▶

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。  
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.